



保線部門で大効率化施策が提案される!

「保線部門におけるメンテナンス体制の最適化2020」

「線路設備モニタリングによる

新たなメンテナンス手法の導入」

酒田保線技術センター、村上保線技術センター、
新潟保線技術センター、長岡保線技術センター、
柏崎保線技術センター トータル △14

【実施日：装置の車両への搭載後順次】

「保線部門の技術支援体制の再整理」

新潟保線技術センター
新潟新幹線保線技術センター

トータル △4

【実施日：2018年7月1日】

「閑散線区の保守業務の見直し」

村上保線技術センター
新潟保線技術センター
長岡保線技術センター
柏崎保線技術センター

越後湯沢保線技術センター（廃止）

トータル △31

【実施日：2018年7月1日】

～施策の概要～

- 線路設備モニタリング装置を活用し、新たに同装置による線路総合巡視を在来線の巡視方法の一つに加え、巡視及び検査を全体として適切な頻度で実施するなどの検査体制の見直しをする。
- 閑散線区において、現在移管している業務に加えて修繕要否の判別を含む軌道の検査および修繕をパートナー会社で実施する。
- 適切な技術判断ができる体制をより効率的に確立するため、これまで進めてきた人材育成の強化に加え、専門的な技術支援を可能とする体制を整備する。

4月末、東日本ユニオン新潟地本に「保線部門におけるメンテナンス体制の最適化2020について」の施策が提案されました。この施策による要員の増減は、全体でマイナス49名となります。

線路設備モニタリング装置の導入や閑散線区の保守業務の見直しによる業務移管など、解明すべき点が多くあります。私たちは、この提案に対し安全・安定輸送の確保、設備管理、技術継承、働き甲斐などの観点で現場の声を届け、より良い施策の実現を目指していきます。

私たち東日本ユニオンは、労働組合として組合員の声を集約し、施策の解明から問題解決へと団体交渉を通じて真摯に取り組んでいます。これからも多くの効率化施策が予想される中、単なる人員削減ありきの効率化とせず、現場の声を反映させなければなりません。この提案に対しての疑問や不明な点などがありましたら、東日本ユニオンまでお寄せ下さい!

この施策への疑問や不明な点は、東日本ユニオンへ!